

2010年の主要水産物の需要と供給

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	数 量							価 格					
	生 産	食用 加工	輸 入	輸 出	東 京	缶 びん詰	在 庫	生産額 (億円)	輸入 (億円)	輸出 (億円)	東 京	魚介類消費 支出1世帯	為替 レート
21	5,432	1,834	2,595	498	588	117	1,163	14,729	12,950	1,727	802	85,917	94
22	5,082		2,722	566	569	114	910		13,704	1,953	815	82,278	88
%	94	0	105	114	97	97	78	0	106	113	102	96	94

数 量

本年の国内生産量は引続き前年をやや下回った。

全体的な特徴としてはカツオやキハダが生産を伸ばしたほかは目立った増産がなく、総じて減少傾向が顕著であった。

大きく増加した魚種は、上記カツオやキハダ等であり、大きく減少した魚種はサンマ、クロマグロ、サケ・マス類、ホッケ、キチジ、アカイカ等であった。

輸入は、272万トンと為替円高効果もあって、前年をやや上回った。

本年は、目立って多くなったのはサバ、すり身、カツオ、ビン長、キハダ、ヒラメ・カレイ類、ウナギ等で、増加乃至横ばい基調の魚類が多かった。

近年増加基調が続いていた輸出は、本年は56.6万トンで為替円高ながら前年（49.8万トン）を上回った。

目立って多くなったのはサケ類、カツオ、サバ類等であり、ロシアや中国を始めとしたアジア地区への輸出が目立っている。

東京の入荷量は、56.9万トンで引続き前年（58.8万トン）をやや下回った。

在庫量は、月平均91万トンほぼ前年（116万トン）を下回った。（集計方法の違いが影響している）

価 格 ・ 金 額

本年の産地価格の特徴は、漁が不振や在庫の少なさ等で上昇が目立った。特にイカ類、サンマ、ホッケ、マグロ類などが大きく上昇した他、総じて価格は強含んだ。

東京消費地価格は、815円で入荷減を反映し前年（802円）をやや上回った。

輸入金額は、1兆3704億円（前年：1兆2950億円）で前年を754億円上回った。

輸出金額は、1953億円で引続き前年（1727億円）を226億円上回り、今年は輸出入とも数量、金額とも増加した。

円 レ ー ト

22年の円レート（対USドル）は、年平均94円で前年（103円）より9円の円高となった。

円レートは、85年の9月のプラザ合意以降一時的な円安がみられたものの急速な円高・ドル安傾向が10年間続いた。

しかし、95年秋から円安に転じ、97年以降に証券会社、銀行の倒産が続き金融システム不

安等も重なり一層円安が進行し、98年も一時140円台の安値を記録するなど秋口まで円安が進行した。その後、一時年末にかけて円高(113円)へと反騰したが、99年は夏場までやや円安(114~121円)で推移したが、下半期には急激に円高に反騰し、12月は103円まで急騰した。2000年は年末の円高の103円からスタートで、一時的な円高はあったが、基本的には円安傾向で推移し、年末には111円まで下げた。01年は長引く不況や銀行、ゼネコン、流通分野での倒産、再編もあり、年を跨いで急激な円安が進行し、9、10月に119円とやや円高に戻したものの12月には124円と円安に急落した。02年には131円の円安から始まってその後円高に転じ、8月に118円まで上昇したが、一向に景況感の低迷もあり12月には122円まで下げた。その結果、為替は10年前の水準まで戻した。03年は年初の119円から始まり9月までは2円前後の幅での小さな動きであったが、10月に111円と急騰し、11、12月と小幅円高で推移し108円まで上げた。04年は年初106円の円高で始まり、5月に112円の円安に振れたが、その後は円高に転じ11月以降は104円、103円まで上げた。05年は年初の103円から下半期には円安に変わり7月には110円まで下げ、その後一貫して円安で推移し、12月には119円まで下げ、年末には若干円高となり117円台で推移した。06年、年初は引続き円高の116円でその後も117円とやや円安で推移していたが、5月に112円と円高に振れたが、それ以降は11月の119円までじり安推移し、11、12月と若干の円高に戻した。07年は年末以上に円安の121円に始まり、6月には123円まで円安が進行した。しかし米国のサブプライムローン等の影響もあって、7月以降は円高に振れ、11月には110円まで進み、12月には112円にやや円安となったが、基本的には下半期は円高基調になった。

08年は、年初から円高となり、3月100円まで円高が進んだその後は8月まで円安に振れたが、9月のリーマンショック以降の世界金融危機の拡大の中で円は急騰し、12月には91円まで上げた。2009年は90円の円高から始まり、4月には99円の円安となり、その後は円高となり、11月には90円を割り、12月には一時84円台を記録するなど、円高が進行した。

10年は当初は91円の円安で始まり、6月まで90-93円の幅で進行したが、下半期に入って87円と90円を割り、その後も円高は10月の82円まで進み、12月の83円とその後若干戻したものの、円高が際立った。

(参考：84年237円→85年240円→86年170円→87年146円→88年128円→89年137円→90年145円→91年135円→92年127円→93年112円→94年102円→95年94円→96年108円→97年121円→98年131円→99年114円→2000年107円→2001年121円→2002年126円→2003年116円→2004年108円→2005年110円→2006年116円→2007年118円→2008年103円→2009年94円→2010年88円)

石油価格(1kl当たり)

22年のA重油価格は、年初は53,000円の高値で始まり、中旬には54,000円に上昇し、この価格が3月中旬まで続いた。そして下旬には57,000円、4月上旬58,000円、中旬60,000円、下旬62,000円、5月上旬63,000円まで上昇した。しかし5月下旬に61,000円と反落し、6月上旬59,000円まで下げたが、その後中旬に再度61,000円と上げこの価格が7月中旬まで続いた。7月下旬に59,000円、58,000円と下げ8月下旬に56,000円になり、10月上旬まで続いた。下旬後半に57,000円と再度上げたが、下旬には56,000円に下げ、11月上旬に53,000円まで下げた。しかし中旬になると58,000円と急騰し、12月上旬に59,000円、中旬60,000円、12月下

旬60,500円まで上昇した。

参考：近年の最高値74,000円/k1（1982年11月）75,000円/k1(2007年12月)、115,000円(2008年7月)